

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13203

研究課題名(和文)途上国における非正規課程の教育に関する国際比較研究

研究課題名(英文)Comparative research on education of non formal curriculum in developing countries

研究代表者

川口 純(KAWAGUCHI, Jun)

筑波大学・人間系・助教

研究者番号：90733329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではマラウイの初等学校における非正規課程の教育に焦点を当て、その実態と今後の展望を明らかにした。正規課程の授業外の教育である「補講授業(エクストラスクール)の開講」や「民営学校への通学(ダブルスクール)」などが隆盛になるなど、教員や保護者が様々な独自の反応を示していることが判明した。結果的に教員、保護者の公立学校離れが起きており、教育の質が断続的に低下する全体構造を明らかにすることが可能となった。

研究成果の概要(英文)：In this research, we focused on education of non formal courses in primary school in Maraui and investigated the current situation and the future prospective. As for non formal education, "Opening of additional complimentary classes(Extra school)"and "Enrollment for Private schools(Double school)"are getting popular and parents and teachers are showing different responses.As a result, we could show the overall sturcture of the intermittent decline in quality of education in the country.

研究分野：国際教育開発

キーワード：無認可学校 教育の質 教員のモチベーション エクストラスクール 低額私立校

1. 研究開始当初の背景

これまでアフリカ諸国は国際社会の後押しもあり、初等教育の量的拡大には成功した。その一方で、教育の質(特に内部効率性やアウトプットの質)に関しては、低下傾向にある国が多い(澤村 2012)。教育の量的拡大が起こった後に質の低下が見られるのは、教育拡大の過渡期に起こる必然的な帰結として捉えることも出来る。

だが、今後、教育の質を改善させるためには、質の低下が起こらないシステムを見出していくことが必要である。そのためには、まず教育の質が低下する全体構造を明らかにしていく必要がある。そのような背景を踏まえて本研究では、これまで注目されてこなかったアフリカにおける初等教育の非正規課程の教育実態に焦点を当て、実態と課題を明らかにしようと試みるものである。

初等教育の連続的な質低下を受けて現地の教員や保護者は、ただ黙って現状の教育の質が低下状況を受容しているのではなく、実際には様々な行動を起こしていることが予想される。実際に、マクロレベルのデータを概観すると、私立学校の急速な拡大やエクストラスクールと呼ばれる有償の非正規授業へ参加する児童の数は、近年、急増している(Chimombo 2010)。しかしながら、アフリカにおける既存研究においては、公立学校の正規課程の教育を対象にしたものが大多数であり、非正規教育の実態は、これまでほとんど明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究は、アフリカの初等学校における非正規課程の教育に焦点を当て、その実態と今後の展望を明らかにするものである。これまで、多くのアフリカ諸国において、EFA (Education for All:万人のための教育) 達成に向け、「無償化政策」など就学を促進する政策が優先的に導入されてきた。結果的に、教育の量的拡大が急速に起こり、教育の質が低下したとされている。このような状況を受けて、ミクロレベルでは「補講授業(エクストラスクール)の開講」や「民営学校への通学(ダブルスクール)」など、教員や保護者が様々な独自の反応を示している。

そこで、本研究ではアフリカの中でも最貧国のマラウイを対象に、正規課程の授業外の教育実態について調査し、その実態と今後の展望を明らかにしていく。具体的には如何なる理由で、どの様な非正規課程の教育(種類、頻度、教育主体等を含む)を子どもに受けさせているのか、その実態解明を行う。非正規課程の教育実態を把握することで、教育の質が低下する全体構造をも明らかにすることが出来ると考えられる。

また、非正規の教育実態に焦点を当てることにより、EFA 政策に対するアフリカ独自の反応を明らかにすることが出来ると考えられる。

本研究は、現地の研究者と協働で地域のミクロレベルの視点から研究を実施するため、新たな教育政策の導入が各国の教育省、教員、地域住民に如何に受け入れられているのか、教育政策受容の視点を提供するという特色がある。そして、教育開発政策の国際的潮流に対して、地域に根ざした問題を掘り起こし、アフリカ独自の新たな視座を提供するという点で創造的である。

また、学術的貢献として、新たな視座を含んだ研究フレームワークの構築が可能になると考えられる。特に、アフリカの論理を含有した教育政策研究フレームワークの構築は学術的に遅れており、本研究結果が貢献することが出来ると考えられる。そして、アフリカの途上国の教育政策受容に焦点を当てることで、教育の近代化が現場に何をもたらし、何を失わせたのか、他の国にも教育政策移行期における新たな視座を含んだ研究枠組みを提示する事が出来るのではないかと考えられる。

本研究結果は、学術的に貢献するだけでなく、実践面においても我が国の国際教育協力政策を初め、国際的にも途上国の教育開発政策に広く貢献することが出来る。また、対象国は当然ながら、途上国の研究全体に対して、ポスト EFA 期における有益な示唆を提供出来ると考えている。

3. 研究の方法

本研究では、現地調査でのフォーカス・グループ・インタビューと参与観察を研究方法の中核に据え、非正規課程の教育の実態を明らかにした。現地調査では、教員や地域住民の観点を中心とし、地域の視点から全容を解明しようと試みた。現地調査に当たっては、マラウイの教育文化、社会状況、宗教、価値観などを十分に踏まえ、現場(下から)の視点で当該実態を仔細に解明していくことを試みた。

(1) 第1次現地調査の実施(マラウイ 8月~9月)

第1次調査では、まず対象村と学校の選別を実施した。

* 対象村は、都市部と農村部から1つずつ地域を選択する。対象とする学校は、当該国の宗教や部族の割合を考慮し、選定した。その後、対象校において教員と地域住民にフォーカス・グループ・インタビューを実施し、非正規課程の教育実態を明らかにしていった。

(2) 2年目には初年度の調査結果を踏まえ、研究計画を見直した上で第2次現地調査を実施した。初年度の研究計画は上記の通りであるが、本研究は、現地の研究協力者と対等な立場で研究を推進する「コミットメントアプローチ」(北村 2005)を採用し、研究を進めていく計画であったため、2年目の研究計画については、研究協力者と十分に協議した上で、

研究フレームワークの見直しを図った。

研究体制としては、調査対象のマラウイにおいて、現地の研究者と協働で調査、分析を実施していく国際共同研究の体制を構築した。これまでの研究で既に、現地において人的ネットワークはある程度構築されていたため。これまでの研究でも常に現地の研究協力者であった Mr. Chikoza Nphiri(教育省リロングウェ地域事務所職員)と Dr.Dorothy Nampota(マラウイ大学教授)に、今般の研究においても研究協力者として、研究に参画頂き、研究を推進した。

さらに効果的に研究を推進するため、教育省や教員養成大学からの正式な支援、助言を得ることにより、より現地に適合した研究フレームワークを構築することに繋がったと考えられる。また、研究結果を現地において活用して頂くことが容易になり、彼らのインセンティブも上がったと考えられる。また、アフリカ開発銀行等のアフリカのリージョナル機関との情報共有や連携等も随時、取り、研究結果の共有などを図った。

4. 研究成果

本研究ではマラウイの初等学校における非正規課程の教育に焦点を当て、その実態と今後の展望を明らかにした。まず、非正規課程の教育課程と一言で言っても、その種類や形態は多種多様であることが判明した。中でも正規課程の授業外の教育である「補講授業(エクストラスクール)の開講」や「民営学校への通学(ダブルスクール)」などが隆盛になっていた。その主体も地域住民やNGOだけではなく、公立学校の教員自らが、開講している事例も多く確認された。

背景として、マラウイにおいては、1994年の無償化政策導入の影響を受けて、公立初等学校の教育が受け入れ能力を超える数の児童を受け容れざるを得ない状況に陥っていた。そのような状況を受けて、教員や保護者が様々な独自の反応を示していることが判明した。学校の正規課程の授業だけでは、十分な学力が担保出来ないと保護者や教員が判断して非正規課程の授業を開講し、有償で学力を担保しようと試みている事例が多く確認された。

しかしながら、正規課程の授業と非正規課程の授業が必ずしも補完関係になっているわけではなく、非正規課程の授業があることが却って、正規課程の授業を阻害している構造が生成されていることも確認された。例えば、正規課程の授業では問題しか教えず、答えは非正規課程の授業内でしか教えないという劣悪な教員が存在することも確認された。

他には、教員、保護者の公立学校離れが起きていることも確認された。非正規課程の授業が隆盛することにより、私立学校の価値が相対的に高まり、公立学校離れを引き起こしていることも示唆された。結果的に、教育の

質が断続的に低下する全体構造を明らかにすることが可能となった。

学術的には、下記のとおり、多くの学術論文として成果を公表することが可能となった。研究計画時には、書籍の刊行ということも計画していたが、そこは遅れているため、今後の課題としたい。

また、今後は、学術的に貢献するだけでなく、実践面においても我が国の国際教育協力政策を初め、国際的にも途上国の教育開発政策に広く貢献することが出来るのではないかと考えている。また、対象国は当然ながら、途上国の研究全体に対して、ポストEFA期における有益な示唆を今後、様々な面から提供出来ると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

Petcharee. R., Kawaguchi, J and Ogawa.K (2017) “Decentralization Policy in Public Secondary school in Thailand: A Focus on Finance and Administration in Chiang Mai” Journal of Social Science and Humanities, vol. 32, pp. 21-35, Chiang Mai University (査読有)。

川口 純、江幡知佳「日本における国際バカロレア教育の受容実態に関する一考察：ディプロマプログラム(DP)に着目して」『教育学系論集』第41巻第2号 pp.35-48, 筑波大学人間系教育学域、2017年(査読有)。

川口 純「教育の質のグローバルガバナンスと開発」『国際開発研究』第25巻 pp.76-88 特集「教育のグローバルガバナンスと開発」2017年(査読無し)。

川口 純「国際バカロレア教育の導入過程における一考察」『文部科学省教育通信』(査読無し)、教育新社、2017年(査読無し)。

川口 純, D. Nampota「マラウイ中等学校における「良い学校改善実践 - 教員の問題意識と教育観に着目して - 」」『国際教育協力論集』, 広島大学国際教育開発研究科, 第19巻第1号, pp. 45-54, 2016(査読無し)。

川口 純「マラウイの「無資格教員」に関する一考察：誰が、なぜ、雇用されていたのか」『アフリカ教育研究』, アフリカ教育研究フォーラム, 第6巻, pp. 37-51, 2016年(査読有)。

宋柔奈、川口 純「韓国における国際協力の発展過程に関する一考察」『ボランティア学研究』, 第17巻, pp. 127-138. 国際ボランティア学会, 2016年(査読無し)。

川口 純「マラウイの中等学校における
衡平性是正の取り組み - SMC の取り組み成
果を中心に - 」, 国際基督教大学教育学研究
所, 『教育研究』, 第 58 号, 2015 年 (査読無
し)

川口 純「ポスト 2015 に向けたアフ
リカの教員養成改革 - インクルーシブ教育導
入と養成課程の適合性について - 」, アフリ
カ教育研究フォーラム, 『アフリカ教育研究』,
第 5 巻 pp.57-69, 2015 年 (査読有)。

川口 純「モルディブのインクルーシブ
教育政策導入過程における一考察」, 国際基
督教大学教育学研究所, 『教育研究』, 第 57
号, pp.183-188, 2014 年 (査読無し)。

川口 純「マラウイ障がい児教育の現状
と課題 - 教員の観点を中心に - 」大場麻代編
『多様なアフリカの教育』, 未来共生リーデ
ィングス 5 巻 pp.15-26, 大阪大学 2014 年(査
読有)。

川口 純「アフリカにおけるボランタ
ークラスの正当性と教育権について - マラ
ウイの初等・中等教育を事例として - 」『ボ
ランティア学研究』, 国際ボランティア学会,
2014 年(査読有)。

〔学会発表〕(計 3 件)

川口 純「アフリカにおけるボランタ
ークラスの実態 貧困層の教育権と教育の
公正性を中心に 」第 18 回国際ボランテ
ィア学会、甲南女子大学(兵庫県神戸市) 2017
年

川口 純「マラウイにおけるインクル
ーシブ教育の導入と展開 : 教員養成の現状と
課題を中心に」第 52 回日本比較教育学会、
大阪大学(大阪府豊中市) 2016 年

川口 純「アフリカにおけるボランタ
ークラスの正当性と教育権について - マラ
ウイの初等・中等教育を事例として - 」『ボ
ランティア学研究』, 国際ボランティア学会,
(京都府京都市) 2015 年。

〔図書〕(計 2 件)

Kazuhiro Yoshida, Kawaguchi Jun,
Ogisu Takayo, (2017) Research on
Implementation Plan of Sustainable
Development Goals (SDGs): Focusing on
Education, pp 87-109, KEDI.

川口 純「家族の生活と学校の関係 - 児
童の就学記録分析を中心に : マラウイの初等
学校を事例に」澤村信英編著『アフリカの生
活世界と学校教育』8 章, 明石書店 2014 年
12 月

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

招待講演

川口 純「インクルーシブ教育の国際的潮流
と今後の展望」, JICA インクルーシブ教育集
団研修講義, (招待講演), JICA 横浜 (神奈川
県横浜市), 2015 年

Kawaguchi Jun “ How Do We Include
Vulnerable Children in Schools in the
Post-2015? A Case Study of Education for
Pupils with Disability in Malawi ”
『Development Management Policy Seminar
“ International Education Cooperation in
the Post-2015: Case of Africa ”』 (招待講
演), Kobe University (兵庫県神戸市) 2014.

Kawaguchi Jun “ A Comparative Study on
Special Education Needs in South Asia :
Maldives, India and Sri Lanka ”, 『UNESCO
Inclusive Education Seminar』, (招待講演)
Ministry of Education in Sri Lanka (キャン
ディ地区), 2014

Kawaguchi Jun “ A Comparative Study on
Special Education Needs in South Asia :
Maldives, India and Sri Lanka ”, 『UNESCO
Inclusive Education Seminar』, (招待講演)
Ministry of Education, Maldives (マーレ
地区), 2014

川口 純「インクルーシブ教育を活用した共
生社会の形成 - 障害者スポーツに焦点を当て
- 」, JICA インクルーシブ教育集団研修講義
(招待講演), JICA 横浜 (神奈川県横浜市),
2014 年

6 . 研究組織

(1)研究代表者

川口 純 (KAWAGUCHI ,Jun)

筑波大学人間系・助教

研究者番号： 90733329